

### ASEAN グローバルプログラム で知った日本の学生と シンガポールの学生が持つ 意識の違い

寺 西 滉 敏  
Hiroto TERANISHI  
機械システム工学科 2 年

#### 1. はじめに

2019 年 8 月 27 日から 9 月 5 日にかけて ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナムの首都ハノイとシンガポールに滞在して、日系企業訪問、現地企業訪問、ハノイ工業大学の学生との PBL、南洋理工大学訪問、シンガポールでのビジネスパーソンの方々による講演会と交流会を行った。具体的な日程は表 1 に示す通りである。

表 1 研修日程

|          |                   |
|----------|-------------------|
| ベトナム     |                   |
| 8 月 27 日 | オリエンテーション         |
| 8 月 28 日 | 栄光堂・NTQ 訪問        |
| 8 月 29 日 | ハノイ工業大学学生との共同 PBL |
| 8 月 30 日 |                   |
| 8 月 31 日 | 戦勝記念博物館等の訪問       |
| シンガポール   |                   |
| 9 月 1 日  | 現地企業代表 Tong 氏の講演  |
| 9 月 2 日  | 南洋理工大学訪問          |
| 9 月 3 日  | Google 訪問         |
| 9 月 4 日  | 自由時間 出国           |
| 9 月 5 日  | 帰国                |

#### 2. 参加目的

私が ASEAN グローバルプログラムに参加した目的は 3 つあった。1 つめは、自身の英語能力が海外でどの程度通じるかを知ること。2 つめは、将来就職する際の選択肢として具体的なイメージのつかない

い海外での就労について知ること。3 つめは、1 度も海外に出た経験のない今の自分と、海外で学んでいる学生や働いている社会人とをグローバルに活躍できる人材という視点で考えたときに今の自分がどのような違いがあるかを客観的に知る機会を得ることであった。

#### 3. 研修内容

今回のプログラムの中で特に日本との差を感じ、自身のこれからの学生生活について考えさせられたシンガポール南洋理工大学の見学と、大学卒業後の希望進路を再考するきっかけになったシンガポールの日本人ビジネスパーソンの方々とのトークセッションについて以下に詳しく述べる。

##### 3.1 南洋理工大学の見学

南洋理工大学はシンガポールという多民族国家にある理系大学として世界最大級の大学である。そのため、初めて大学構内を見て歩いた時に興味深いと思った事は様々な国々から学生が集まり、在籍していることであった。日本という民族の多様性が低い国からは想像もつかない光景で、右を通り過ぎる人と左を通り過ぎる人が全く別の言語で話していた。次に印象深かった光景は、昼休憩の時間の南洋理工大学学生の過ごし方であった。南洋理工大学の食堂は複数のテナントが入っていてかなり大きいものであったが、食堂にいる学生たちの半分ほどがノートパソコンを片手に学習をしながら食事をとっているようだった。南洋理工大学の見学を通して常に感じたことは、学生の学業に対する意欲の高さだった。体験させていただいた講義でも学生たちは教室の前方に着席し積極的に手を上げて発言していた。更にシンガポールの暑さは体感的に日本と変わりなかったにもかかわらず、授業時間外の学生たちが外のベンチで勉強していた。今回の南洋理工大学訪問で、私は自分自身と南洋理工大学の学生との間には、勉強に対する意欲において格段の違いがあることを強く感じた。

### 3.2 ビジネスパーソンとの交流会

最終日前日に開かれたこのプログラムでは南洋理工大学で感じた南洋理工大学学生と自分自身の学業に対する意欲や考え方の差を埋めるためのヒントを数多く知ることができるとも貴重な機会であった。海外に留学した経験話をしてくださった方は留学前の1年間に毎日10時間以上英語を勉強し続けたということだった。それでも国ごとに英語の発音になまりがあるため、聞き取ることが難しいこともあったが一緒にスポーツをすることなどを通じてコミュニケーションをとることで、その国の英語に慣れ、話せるようになったので、英語の学習はアウトプットが大事だということを話してくださった。

また、人材業界で社長を務める方からは残りの大学生活は自分の人生を支えるために必要な物を2つ決め、それに全力を尽くすべきだと教えてくださった。シンガポールで企業を立ち上げた方にはその方法やノウハウとその方の信条を教えていただいた。最後に講演してくださった加藤さんには人の持つ同調圧力についてと現在の日本に対する起業家・投資家としての考えについて講演していただいた。なぜ南洋理工大学の学生と龍谷大学に通う自分たちの間にこれほど大きな差があるのかを考えていたのでその要因の1つを知ることができた。加藤さんは学生時代に社長になりたい人たちでグループを作り、語り合うことで必ず社長になるという同調圧力によるポジティブな思考状態になっていたとおっしゃっていた。この講演を聴いて私は南洋理工大学でも学生たちがみな学業に全力で取り組もうという雰囲気があり、良い同調圧力が働いている結果、あの素晴らしい学修環境になっているのではないかと考え

る。

### 4. おわりに

今回のプログラムを通して、自身の英語能力の至らなさを知るとともにとても多くの事を学び、自分自身を見直すきっかけとなった。恐らく私が今回のプログラムで学んだことは、自身のキャリアを模索するために、今の自分に必要な改善が多くを占めるように思う。自分の英語スキルが海外でどの程度通じるかを知る目的においては、全く通じないレベルであることを理解し、かなり悔しい経験をした。英語ができないことでこれほど苦勞するとは考えていなかったなのでこれから改善していきたい。海外での就労の具体的なイメージはASEAN グローバルプログラムに参加する前と比較して、かなりできるようになった。今回のプログラムでは東南アジア諸国というくりの地域だったが将来的にはもっと広い地域を訪れ、様々な文化や価値観を学びその経験を生かして海外で働いていきたい。海外の学生と比較して現在の自分を見つめ直すと、学業に対する意欲が足りていなかったと思う。自分1人ではどうしても学修意欲を高められない同調圧力に負けてしまう可能性が高いので、友人たちと一緒に努力を続けられる環境を作っていきたい。今回のプログラムは今までの自分から生まれ変わるとも素晴らしい機会になり得ると思うので目標に向かってこれから努力していきたい。

最後になりましたが今回の ASEAN グローバルプログラムでお世話になりましたすべての皆様に、これからの人生を変えうる貴重な経験を数多くさせていただいたことを心から感謝します。